

とちぎの子ども「確かな学力」向上のために

～平成26年度全国学力・学習状況調査結果から～

平成26年12月 栃木県教育委員会

この資料は、平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について、県全体と全国(公立)との比較を中心に、とちぎっ子学習状況調査結果と併せた分析を一部加え、まとめたものです。とちぎの子ども「確かな学力」向上を目指し、全国学力・学習状況調査結果等や教育課程研究集会から見た成果と課題を踏まえて作成したリーフレット「『主体的に考え表現できる子ども』を育てるために」※(栃木県教育委員会 H26.12配布)と併せて活用することで指導改善にお役立てください。

※ P.6参照

1 教科に関する調査の結果について

(1) 各教科の平均正答率

小学校では、平均正答率は全国と比較してほぼ同程度です。国語A・B、算数Bは全国との差が縮小しています。

中学校では、国語Bを除き全国平均をやや下回りましたが、ここ数年、全国平均とほぼ同程度で推移しています。

県全体の平均正答率は、小・中学校共に全国と同程度ですが、児童生徒一人一人には様々な課題があることから、個に応じたきめ細かな指導を充実させましょう。

その際、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、これらを活用する思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく行うことが大切です。つまずきやすい内容を繰り返し指導するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述などの知識・技能を活用する学習活動を計画的に取り入れましょう。



○本県の平均正答率 (%)

<小学校第6学年> ()内は全国(公立)との差

問題	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26
国語A	81.7 (0.0)	64.3 (-1.1)	68.8 (-1.1)	82.9 (-0.4)	80.4 (-1.2)	61.1 (-1.6)	71.9 (-1.0)
国語B	61.0 (-1.0)	49.5 (-1.0)	49.9 (-0.6)	77.2 (-0.6)	54.2 (-1.4)	47.9 (-1.5)	54.5 (-1.0)
算数A	81.1 (-1.0)	71.4 (-0.8)	78.9 (+0.2)	74.8 (+0.6)	72.6 (-0.7)	76.8 (-0.4)	77.7 (-0.4)
算数B	62.1 (-1.5)	50.7 (-0.9)	53.3 (-1.5)	49.0 (-0.3)	56.6 (-2.3)	56.3 (-2.1)	56.8 (-1.4)

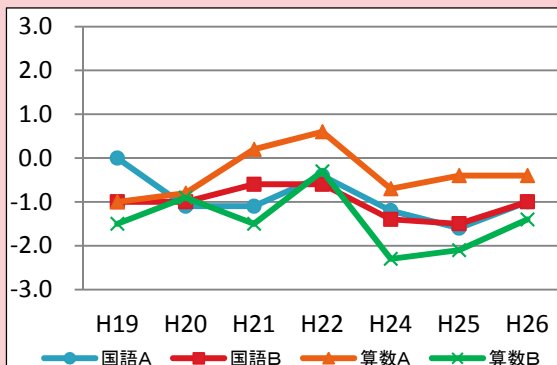
<中学校第3学年> ()内は全国(公立)との差

問題	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26
国語A	82.7 (+1.1)	73.7 (+0.1)	77.8 (+0.8)	74.8 (-0.3)	75.4 (+0.3)	77.2 (+0.8)	79.3 (-0.1)
国語B	74.0 (+2.0)	60.8 (0.0)	76.5 (+2.0)	65.8 (+0.5)	63.7 (+0.4)	68.0 (+0.6)	51.4 (+0.4)
数学A	71.9 (0.0)	62.4 (-0.7)	62.8 (+0.1)	63.8 (-0.8)	61.6 (-0.5)	63.8 (+0.1)	66.9 (-0.5)
数学B	60.6 (0.0)	48.5 (-0.7)	57.9 (+1.0)	42.8 (-0.5)	49.6 (+0.3)	41.1 (-0.4)	59.3 (-0.5)

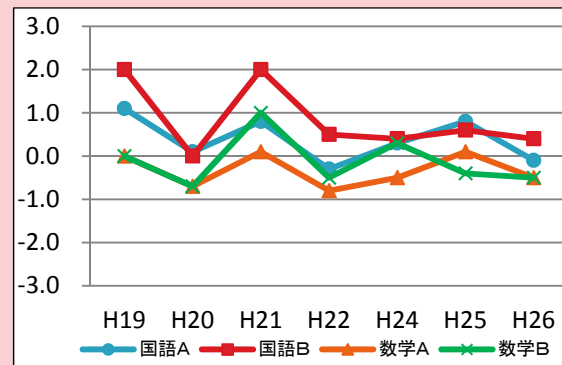
[H22、24は抽出校の平均正答率]

○全国の平均正答率との差 (%)

<小学校第6学年>



<中学校第3学年>





ここ数年の本県の平均正答率は全国との差がほぼ2ポイント以内で推移し、全国と同程度といえます。しかし、各教科の設問、領域ごとの結果や質問紙調査の結果を分析するといくつかの課題が見られます。そこで、本県が今後力を入れるべきことを明らかにするため、本県児童生徒の課題である思考力・判断力・表現力等の状況を見ることができるとしているB問題に着目し、国語、算数・数学のB問題のいずれか、もしくは両方が全国平均正答率より2ポイント以上高い都道府県を抽出し、その平均値を算出して比較しました。なお、表やグラフ、文中では「抽出都道府県」と表記しています。

(2)-1 国語

解答形式ごとの平均正答率については、全国・本県共に、記述式問題は約34%と低く、選択式、短答式問題の半分程度です。また、本県と「抽出都道府県」を比べると、記述式問題における差が最も大きいことが分かります。

考えの理由が分かるように気を付けて書くことについて肯定的に回答した本県児童生徒の割合※は、全国だけでなく、「抽出都道府県」の割合を上回っています。

国語の指導として書く習慣を付ける授業をよく行ったと回答した本県の学校の割合は、「抽出都道府県」と比べて8ポイント以上低いことが分かります。

本県の児童生徒は、根拠を明確にして適切に書こうとする意識が全国より高く、望ましい傾向にあります。しかし、書く習慣が身に付いていないために書く能力が十分には身に付いていない可能性があります。

書く習慣を身に付ける授業を工夫したり、記述と説明、話し合いを意識的に関連付けて指導したりするなどして、授業改善を図っていきましょう。



※「肯定的に回答した割合」とは、「当てはまる(よく行った)」「どちらかといえば、当てはまる(どちらかといえば、よく行った)」と回答した割合の合計です。

小学校国語B 解答形式ごとの平均正答率(%)

	選択式	短答式	記述式
① 栃木	61.3	65.9	33.8
② 全国	62.1	67.7	34.4
③ 抽出都道府県	65.1	71.1	42.0
①-③	-3.8	-5.2	-8.2

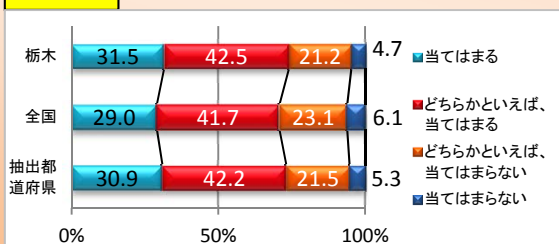
中学校国語B 解答形式ごとの平均正答率(%)

	選択式	短答式	記述式
① 栃木	56.5	—	41.3
② 全国	55.9	—	41.0
③ 抽出都道府県	58.1	—	44.9
①-③	-1.6	—	-3.6

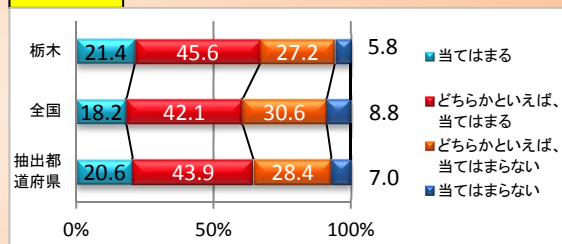
児童生徒質問紙

国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。

小学校



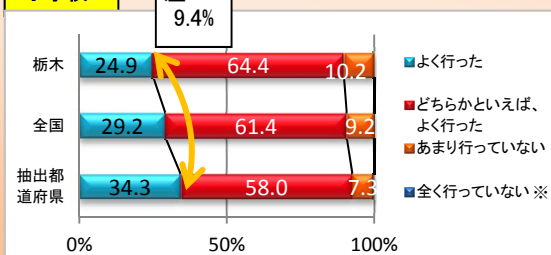
中学校



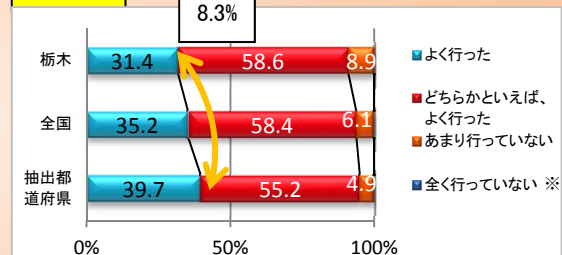
学校質問紙

国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか。

小学校



中学校



※ 「全く行っていない」は0.1または0.0のため表示していません。

(2)-2 算数・数学

解答形式ごとの平均正答率について、本県と「抽出都道府県」を比べると、記述式問題の正答率の差が最も大きいことが分かります。

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書くことについて肯定的に回答した児童生徒の割合は、「抽出都道府県」と同程度です。

算数A・数学Aの解答時間に関して「時間が余った」と回答している本県児童生徒は、全国や「抽出都道府県」に比べて少ないことが分かります。

児童生徒の記述の実態を把握した上で、児童生徒の書くことへの意欲を大切にしながら、何をどのように記述するのか視点を明確にしたり、一度記述したものを振り返らせ適切な表現に直したりするなど、日頃からより丁寧な指導を心がけましょう。

また、解答時間に余裕がないと感じている児童生徒が全国や「抽出都道府県」に比べると多い傾向があります。児童生徒の実態から原因と対策を考え、改善を図りましょう。



小学校算数B 解答形式ごとの平均正答率(%)

	選択式	短答式	記述式
① 栃木	63.8	61.3	47.6
② 全国	64.7	62.2	49.7
③ 抽出都道府県	66.6	64.4	54.0
①-③	-2.8	-3.1	-6.4

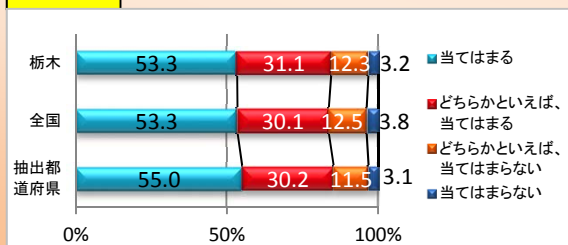
中学校数学B 解答形式ごとの平均正答率(%)

	選択式	短答式	記述式
① 栃木	83.7	62.5	44.0
② 全国	83.2	63.3	44.8
③ 抽出都道府県	85.2	67.1	49.1
①-③	-1.5	-4.6	-5.1

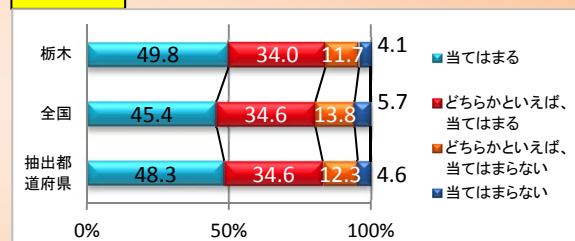
児童生徒質問紙

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

小学校

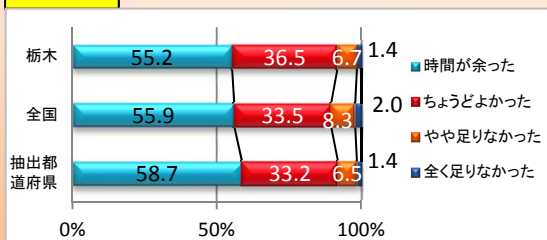


中学校

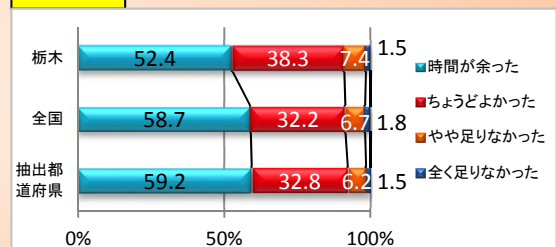


調査問題の解答時間は十分でしたか(算数A・数学A)。

小学校



中学校



2 児童生徒質問紙調査の結果について

(1) 児童生徒の様子

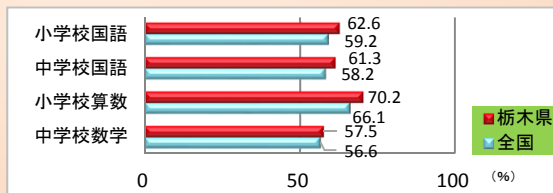
学習に対する関心や意欲、自尊心などについての肯定的な回答の割合は、例年と同様に全国を上回っています。
きまりを守ることについての肯定的な回答の割合は、9割程度です。

「考えや意見を発表すること」が得意であると回答した児童生徒は、5割程度です。特に中学2年生が最も低い割合となっています。

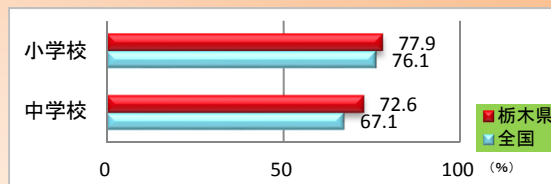
どの学年の児童生徒も前向きに学校生活を送っていることが、今回取り上げた項目以外の調査結果(学校に行くことは楽しいですか、失敗を恐れずに挑戦していますか等)からも明らかになっています。
児童生徒が自信をもって自分の考えや意見を発表できるよう、言語活動の改善を図りましょう。



勉強が好きですか。

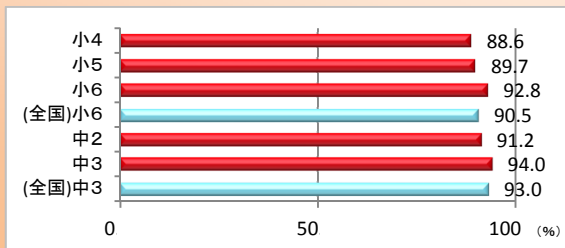


自分には、よいところがあると思いますか。

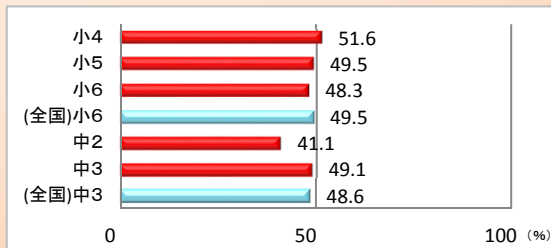


学校のきまり(規則)を守っていますか。

○学校のきまりやマナーを守っている(H26とちぎっ子学習状況調査)



友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



※4つのグラフの数値は、児童生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」または「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合(%)の合計です。

○小4、小5、中2については、「平成26年度とちぎっ子学習状況調査」で得られた結果です。

(2) 家庭での時間の使い方

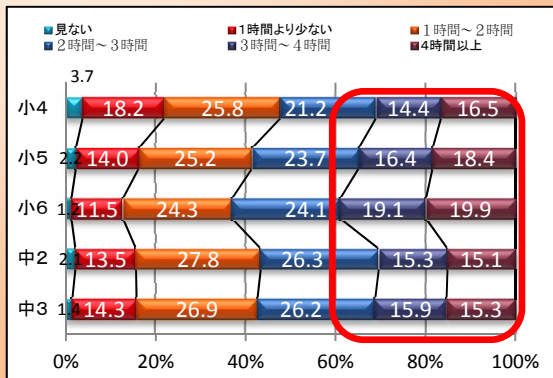
児童生徒の3割以上がテレビやビデオ等を3時間以上視聴しています。小学校では、学年が上がるにつれて視聴時間が長くなる傾向が見られます。

テレビゲームを長時間する割合は、中学校では昨年と比べると増加しています。また、テレビゲームを長時間している生徒ほど平均正答率が低くなっていることが分かります。同様の傾向が小学校でも見られます。

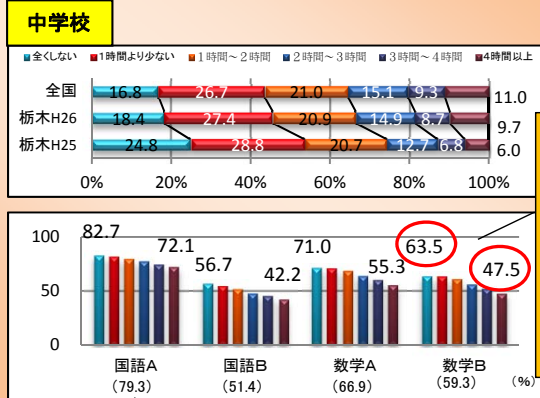
依然として、テレビやビデオ等の視聴時間やテレビゲームをしている時間が長いという傾向が見られます。
家庭での時間の使い方について、保護者の協力を得ながら改善を図っていくことが大切です。



1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか。



1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。



「全くしない」と回答した生徒の数学Bの平均正答率が63.5%、「4時間以上」と回答した生徒の平均正答率が47.5%ということを示しています。

○小4、小5、中2については、「平成26年度とちぎっ子学習状況調査」で得られた結果です。

県全体の平均正答率を示しています。

3 学校質問紙調査の結果について

(1) 授業における目標(めあて・ねらい)の提示、学習内容を振り返る活動の実施状況

目標(めあて・ねらい)の提示については、よく行ったと回答している割合が全国や「抽出都道府県」より高いことが分かります。

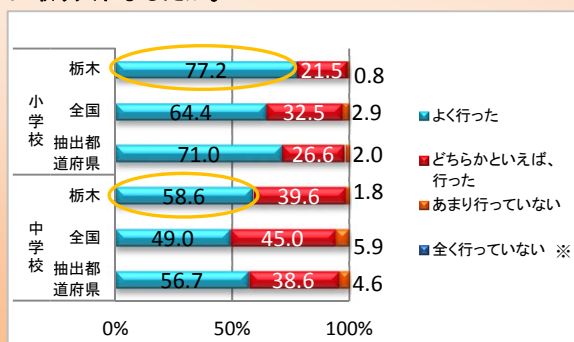
学習内容を振り返る活動について、肯定的に回答した割合は同程度ですが、よく行ったと回答した割合は、小学校、中学校共に低いことが分かります。

授業の冒頭に目標(めあて・ねらい)を示すことは定着していますが、授業の最後に振り返る活動を取り入れることについては、改善の必要があると思われます。

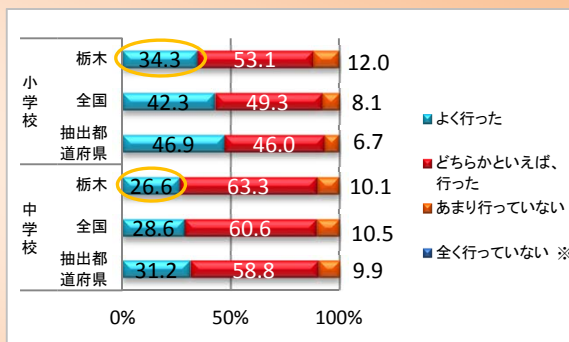
「ねらい」「指導」「振り返り」のつながりを意識した指導を行うことで、子どもの主体性と思考力を育むことができます。



授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れられましたか。



授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか。



※ 「全く行っていない」は0.1または0.0のため表示していません。

(2) 言語活動に関する指導の状況

言語活動の実施状況や課題について、全教職員による研修をよくしていると回答した学校の割合について、小学校より中学校が低いことが分かります。

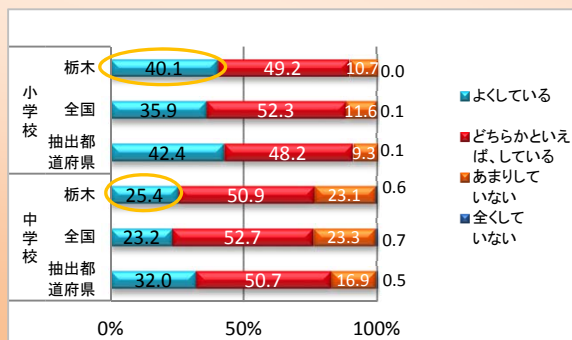
思考を深めたりするような発問についてよく行ったと回答した学校の割合は、「抽出都道府県」と比べて5ポイント以上低いことが分かります。

言語活動に関する質問の結果を見ると、「よくしている」「よく行った」では「抽出都道府県」に比べ低い結果となっています。

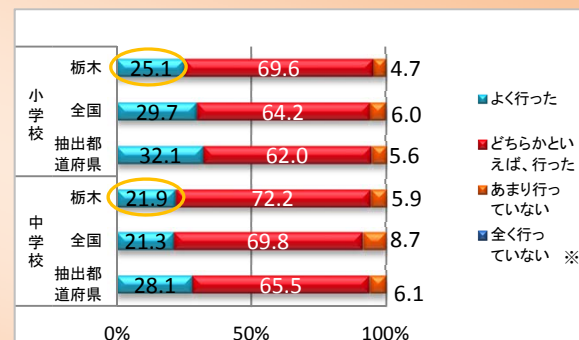
リーフレット「『主体的に考え表現できる子ども』を育てるために」で示したように、「記述」する活動と「説明」「話し合い」といった活動を関連付けることが大切です。校内研修等の充実を図るとともに、学校全体で組織的・系統的な指導を心がけましょう。



学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。



様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。



※ 「全く行っていない」は0.1または0.0のため表示していません。

(3) 調査結果の活用

全国学力・学習状況調査の結果を分析し、指導改善に活用することについて、よく行ったと回答した割合は20%前後で、全国と比べて低いことが分かります。

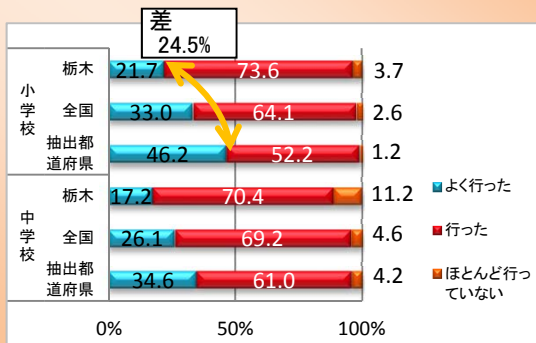
調査結果を学校全体で活用している学校の割合について、本県の中学校では、ほとんど行っていないと回答している学校が約18%あります。

全国学力・学習状況調査の結果を分析し教育活動等の改善に生かしたり、学校全体で活用したりする割合は、昨年同様低い結果となりました。

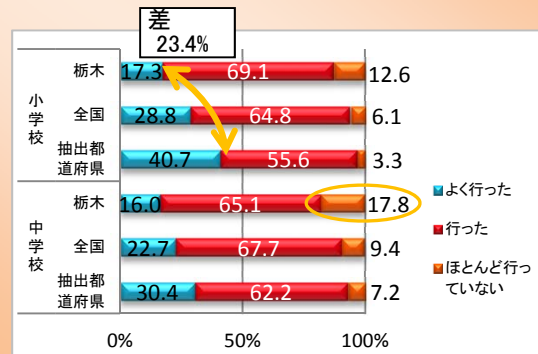
調査結果から明らかになった課題を全教職員で共有し、指導計画を見直すなど、学校全体で改善に向けた取組を行うことが大切です。



平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。



平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。



4 今後の取組について

本県の児童生徒の多くは、学習に対する関心・意欲が高く、前向きに学校生活を送っていますが、その一方で、国語や算数・数学では記述式の問題に課題が見られます。また、学校の取組については、調査結果の活用及び授業における「振り返る活動」などに課題が見られます。

今後、本調査の結果から明らかになった自校の強みと課題を全教職員で共有し、検証改善サイクルを確実に運用するなど、学校全体で組織的に学力向上に取り組むことが大切です。その際、以下に示す資料等を参考に、自分の考えを文章にまとめて記述するなどの言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育成しましょう。

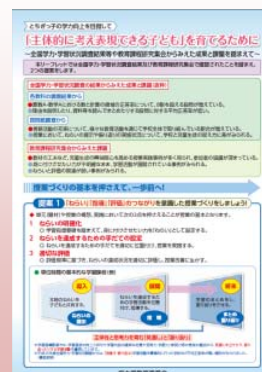


文部科学省が作成した「授業アイデア例」や県教育委員会が作成した「『主体的に考え表現できる子ども』を育てるために」「とちぎの子ども」の学力向上を図る授業改善例などを、指導改善に御活用ください。なお、これらの資料はホームページからダウンロードすることができます。

平成26年度
全国学力・学習状況調査
授業アイデア例



「主体的に考え表現できる子ども」を育てるために



平成26年度
とちぎの子ども」の学力向上を図る授業改善例



本リーフレットは、栃木県のホームページからダウンロードできます。

(栃木県ホームページ>教育・文化>学校教育>学習指導・学力向上>学力向上について【学力向上推進室】)

栃木県教育委員会事務局学校教育課 学力向上推進室 〒320-8501 宇都宮市塙田1丁目1番20号 TEL 028-623-3367

FAX 028-623-3361